

東京

「其の日」暮らし

＝ドイツ編＝



思わぬ収穫

日本では34度や35度が続いていたと聞いていましたが、こちらは今年の夏はとても涼しく私はほとんど長袖で過ごしました。去年買ったタンクトップや買ったノースリーブの素敵な服を着る機会がないほど。そして空を見上げると秋の空になっていて、吹く風もどんどん冷たくなってきました。去年に比べてリンゴの実が赤くなるのが早い気がします。ドイツは実のなる木がとても多くて、庭のある家や公園にはサクランボやリンゴ、洋なしやプラムが植えてあります。そしてその家の垣根を出て公道や公共の場所にはみ出している果実は勝手に取って食べても良いのだそうです。

先日友達のお宅に遊びに行った時のことです。食事のあと近くの森を散歩しようということになりプラプラと歩いていました。その森の入り口あたりで果実が熟れた匂いがあるのです。そのまま進むと、足下にいっぱいプラムが落ちていました。そこは家に庭がない人が土地を買って手入れをし、夏の週末にバーベキューをしたりして、すぐすための庭が並んでいる場所でしたが、実の重みで木が垣根を押し倒し枝が私の腰の辺りにまで垂れ下がっているのです。そんな場所がしばらく続き、まるで「収穫してくれー」と誘っているよう。その下の茂みには真っ黒に熟れたブラックベリーがつかつやと輝いているのです。もう一人いた友達にその日は「昨日森で摘んだブラックベリーのジャム」を貰ったところだったのでブルーベリージャムを作ろうということになりみんなで収穫。ただの食後の散歩がブルーベリー摘みの散歩に代わりました。そういえばジャムをくれた友達とは以前もクルミを拾いに草原まで行ったことがあったなあー。莓狩りとか、梨狩りや栗拾いって食べるのはもちろんだけど、拾ったり摘んだりするのが楽しいというのを思い出しました。

苺とゆず以外のジャム作りは初めてでしたが、苺のジャムの要領でやってみようと作り始めました。蜂の幼虫がいる可能性があるかと聞いたので、半分に割って種を取り除いてチェックしながら



作りました。私が思い描いていたのはブルーンの実の形がそのまま残ったコンポート状のジャムだったのに、現実には触ってもいないうちに実が溶けてジャム状になってしまったのです。「こんなはずではなかったのに!!」すごくショックでした。甘酸っぱくて美味しかったのがせめてもの救いです。現金な物でショックを受けた割にジャムの減るスピードは早く残すところあと二瓶になっています。

PUKI・PUKI・N



掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞